

研修日時；2023年9月23日～24日

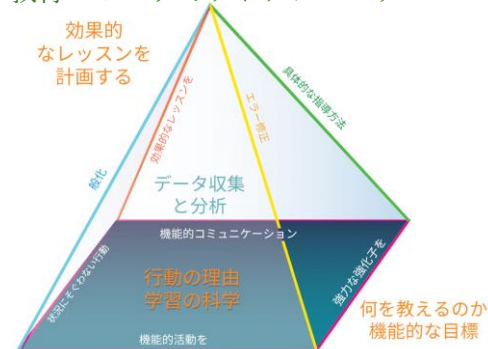
講師：ネグロンちひろ 先生

○PECS®：Picture Exchange Communication System

絵カード式交換式コミュニケーションシステム

- ・1985年にL.フロリスト(言語聴覚士)とA.ボンディ(応用行動分析学)が開発したコミュニケーション指導法
- ・理論的基盤はSkinnerのVerbal Behavior(1957)とピラミッドアプローチ(応用行動分析学)

教育へのピラミッドアプローチ®



・PECS®対象：機能的なコミュニケーションがとれない、自発的なコミュニケーションが難しい、コミュニケーションの相手が理解できない、年齢に合った語彙と文法を使っていない

- ・PECS®は代替コミュニケーション、拡大コミュニケーションのどちらとしても使える

AAC(拡大・代替コミュニケーション)やPECS®は発語を抑制しない、発語を無視する・諦めることではない、PECS®を実践している中で発語を促していく。

- ・最初のPECS®のレッスン=欲しいものを要求する

現在行っている欲しいものを獲得する方法より、絵カードを交換する方が“簡単”だと教える

- ・機能的コミュニケーション

①人に働きかける②メッセージを発する③相手から何か良いことが返ってくる

- ・9つの重要なコミュニケーションスキル

①欲しいものを要求する②援助を要求する③休憩の要求④「これ欲しいですか？」に拒否で応える⑤「これ欲しいですか？」に肯定で応える⑥“待つ”と“ダメ”に応じる⑦口頭と視覚提示に従う⑧活動間の移行⑨スケジュールに従う

○PECS®の6フェイズ

I.物理的な交換 目標：コミュニケーションのやりとりを自発する

II.距離と持続性 目標：コミュニケーションブックのあるところへ行く、コミュニケーションブックを持ってコミュニケーションパートナーのところへ行く

III.絵の弁別 目標：ブック上/ブック内にある全ての絵カードの中から正しい絵カードを選択する

IV.文構成 目標：述語カードを使って要求する

V.応答による要求 目標：応答による要求と自発的要求

VI.コメント 目標：学習者がいる環境の中で自発的にコメントする

○コミュニケーション様式の変更：PECS®から発語または音声表出機器 (SGD)

新しい様式の語彙数=現在の語彙数

自発率が等しい

発話の長さが等しい

新しい様式でなじみのない聞き手でも 8割くらいは理解できる

やりとりの速さが同じくらい

この事項全てを評価することが必要